

茨城県
自衛隊家族会

会報

第3号
2025年3月1日
発行者
正代 初代

入会案内特集

会長挨拶

茨城県自衛隊家族会
会長 正代 初代



本日は、入校・入隊される方々に心からお祝い申し上げます。茨城県自衛隊家族会には皆様方が、職務に誇りを持ち、専念できる環境を作るお手伝いをするとともに防衛講話の開催・ホームページの開設等を通じて私たちの活動を国民（県民）の皆様知っていただき、自衛隊・自衛官の理解者・応援者を増やしていくことを目的としております。私たちの日々の活動の状況

は、携帯電話で「茨城県自衛隊家族会」を検索していただければホームページにてご確認ください。（下図のQRコードからも訪問できます。）



また、ホームページの下部にある「当家族会へのご入会申込みフォーム」をタップしていただければ入会申込みができます。ご息が入校・入隊される職場の皆様とご一緒に応援していきたくと思っております。

ここからは、令和六年度の活動状況をご紹介します。よろしくお申し込みをお願いします。

○三月・会員の募集活動

令和六年三月二日にヒロサワシティホールにて自衛隊への入

隊激励会の場をかりて「入会説明会」を実施しました。その結果、十六名の方に入会して頂きました。
○五月・令和六年度茨城県自衛隊家族会総会
令和六年五月三十日総会には



会員とご来賓を含め約六十名の方に参加して頂きました。厳かな雰囲気の中、時には活発なご意見をいただきました。今後は益々当会の充実を図り、真の自衛隊を支える団体として活動していきたくと思っておりますので皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。また、総会後



には栗秋茨城地方協力本部長に防衛講話をお願いいたします。

き自衛隊に関する知識を深めることができ、更に懇親会には三十四名の方の参加を得て、和やかな中盛大に実施することができました。



○六月・野戦砲兵の弾着景況の視察研修（東富士演習場）
東富士演習場を訪問し、野戦砲兵により発射された砲弾の弾着の景況を防弾壁付窓から確認する視察研修を実施しました。午前中に資料館及び自衛隊の戦車等装備品を見学、その後、隊員食堂にて体験喫食を行いました。午後になり、トラックの荷台に乗り、東富士演習場に前進しました。到着したのは弾着地域に設けられた防弾施設、この施設に弾着を確認するための窓があり、そこから破裂の状況を確認しました。



○六月・自衛官候補生課程修了式に県家族会会長が参加

自衛官候補生課程学生の教育は勝田駐屯地施設学校の施設教導隊新隊員教育隊が約三ヶ月にわたり担任され、晴れて令和六

年六月二十九日(土)に修了式を実施されました。県家族会長は来賓として二十五名の課程修了者に対し祝辞を述べると共にその後お時間をいただき「家族会」に対し家族会



集合写真



入会に関する説明を実施しました。自衛隊を支える部外団体として課程修了隊員の厳しい訓練を乗り越え無事修了された

ことをねぎらい、かつ明るい将来を祈念する祝辞はご参加の家族にも共感を分かち合うものとなったようです。

○八月：勝田駐屯地、雨下の花火大会

勝田駐屯地で開催された、ひたちなかの花火大会はあいにく雨下の大会となりました。豪雨にもかかわらず花火が上がるのを初めて経験しました。さすが自衛隊です。車中から撮った花火の様で



雨中の花火

す。

○八月：霞ヶ浦駐屯地納涼大会に参加

霞ヶ浦駐屯地で実施された納涼大会に正代県会長及び木間塚かすみがうら市会長が参加されました。今回は例年創立記念行事で式典が実施される倉庫前広場におい



花火



自衛官募集ブース

て、盆踊り及び花火大会が実施される倉庫前広場におい

実施され、隊員の方々を激励しつつ一緒に楽しんでまいりました。また、会場周辺には自衛隊茨城地方協力本部が「自衛官募集ブース」を設定されておりましたので応援を兼ねて談笑いたしました。早速、自衛隊入隊希望者の方が応募されている風景を垣間見て、ブース設定の効果を実感いたしました。今後は関係者と調整し、県自衛隊家族会からも隣接した場所にブースを設定し、協力したいと考えております。

○九月：勝田駐屯地での体力検定の見学・激励

勝田駐屯地で実施された新隊員後期教育課程の入校隊員による体力検定を見学・激励してきました。

は第一法が腕立伏せ、腹筋、三千メートル走、第二法が二十リットル水缶運び、武装幅跳び。隊員の皆さんは猛暑の中、訓練の成果を發揮すべく全力で検定に参加しておられました。家族会会員も皆、爽やかな気持ちで一生涯応援させて頂きました。今回の見学・激励では施設学校総務部長、教導隊長、広報班長等多くの方に迎えて頂きました。感謝申し上げます。



3,000m走



腹筋

腕立て伏せ



腕立て伏せ

○九月：第二十四回百里基地音楽祭開催

小川文化センター(アピオス)

において航空自衛隊創設七十年記念行事として「第二十四回百里基地音楽祭」が開催されました。茨城県自衛隊家族会からは県会長、地区会長、四十名以上の会員の方々が訪れ、航空自衛隊中部航空音楽隊及び茨城県警察音楽隊の演奏を楽しみました。



音楽隊長・基地司令との集合写真

○九月：百里基地での「隊員家族支援への協力に関する協定書調印式」

航空自衛隊(百里基地及び霞ヶ浦分屯基地)、茨城県自衛隊家族会、茨城県隊友会及び自衛隊茨城地方協力本部の間で「自衛隊家族支援への協力に関する協定書」の調印式が行われました。当家族会からは、正代県会長のほか、地区会長等五名(須藤様、木間塚様、星田様、小針様、石井様)及び正代事務局長が参加しました。また、県隊友会長ほか隊友会支部長等も参加し式は厳かに実施されました。その後、基地幹部食堂で午餐会、引き続き格納庫



協定書

に移動し、戦闘機を前に現役の若きパイロットの皆さんによる説明、その後百里基地名物の警備犬の訓練の展示を見せていただき、百里基地の一端を理解することが出来ました。基地司令ほかご案内の隊員の皆様に感謝申し上げます。

○十月：勝田駐屯地殉職隊員慰霊祭

陸上自衛隊勝田駐屯地で行われた殉職隊員慰霊祭に県自衛隊家族会長ほか日立市、常陸大宮市、常陸太田市、茨城町、水戸市、笠間市、かすみがうら市、つくば市、筑西市、行方市、那珂市の各地区家族会長が参加されました。県自衛隊家族会から供花を捧げるとともに県会長が献杯の役を務められ、有意義な慰霊祭となりました。



勝田駐屯地慰霊祭



県家族会長による献杯

○十一月：海上自衛隊館山基地へり体験搭乗

県自衛隊家族会事業として、二十四名の会員の皆さんの参加を得てヘリコプターの体験搭乗を実施しました。現地に十二時頃到着し、①管制塔見学、②消防体制研修、③資料館見学、④体験搭乗を二個組に分かれて順次実施しました。このうち、体験搭乗は三名にわたり実施して頂き



へり体験飛行

館山基地を飛び立ち上空約二百メートルの高度で館山湾から東京湾、富士山方向の景色を堪能しながらの各二十分程度の飛行でした。搭乗後の会員の皆さんの顔には満喫した表情が伺えました。今回の体験搭乗をお受けいただいた館山基地の皆様、この企画を全面的にご支援いただいた自衛隊茨城地方協力本部の皆様には、甚深なる感謝を申し上げます。



体験搭乗

○十一月：令和六年度自衛隊音楽祭り

三自衛隊創立70周年記念自衛隊音楽祭りが日本武道館において実施されました。県自衛隊家族会からは一般公募に応募された方々の外、防衛省から頂いた県自衛隊家族会会



自衛隊音楽まつり

にわたり全国の自衛隊音楽隊の友好国からヨルダン軍音楽隊、米海兵隊音楽隊も参加し、「音楽、そこにある共鳴」をテーマに各種楽曲が演奏されました。陸海空の歌姫の美声、防衛大学校学生のファンシードリル、全国の大鼓隊の壮大な音の共演はどれも感動するものでした。観客も歌姫の指示により自らの携帯電話の照明を点灯し、一丸となって多数の明かりが武道館を彩った光景は壮大でした。

○十一月：令和六年度勝田駐屯地・施設学校開設七十三周年記念行事

勝田駐屯地・施設学校開設七十三周年記念行事が実施されました。県自衛隊家族会からは県会長他



鏡割り

近傍の地区家族会長が参加されました。当日は九時四十分から観閲式、観閲行進、アトラクション、訓練展示、祝賀会食等が行われ、観閲式では県会長が紹介され、祝賀会では同じく県会長が鏡割りに参加しました。

また、駐屯地司令・学校長等の暖かい歓迎を受け、県家族会として協力・支援を期待されていることを実感した次第です。



観閲行進

○十一月：武器学校・土浦駐屯地創立七十二周年記念行事参加

武器学校・土浦駐屯地創立七十二周年記念行事が実施され県自衛隊家族会会長が参加されました。また、阿見町及びつくば市の自衛隊家族会員の有志の方々の参加もありました。式典では学校長の式辞につづき、国会議員、地元の阿見町長の祝辞の後、県自衛隊家族会長も来賓紹介を受けました。また、懇親会では壇上の鏡割りにも参加させていただき、県自衛隊家族会が茨城県下の各自衛隊に広く受け入れられつつあることを示すものと思われま

○十二月：北方領土返還要求アピール行進に参加



総理大臣式辞



栄誉礼



会長参加の鏡割り



EOD防護服

ルスが登場。青空の下、「ダーティターン」「サンライズ」、



サンライズ曲技飛行

石川県小松基地から飛来した能登半島の復興を祈念する特別塗装機のF15、一機が登場しました。午後、いよいよお待ちかねのブルーインパツ



特別塗装機 F15

穏やかな晴天に恵まれ、素晴らしい航空祭を存分に楽しむことができました。

午前中には、

○十二月：空自創設70周年記念「百里基地航空祭特別招待」(百里基地で素晴らしい航空祭と絆を祝う)

東京にて実施された「北方領土返還アピール行進」に(公社)自衛隊家族会から多くの会員が参加される中、茨城県自衛隊家族会からも会長他有志の方々が参加し、ロシアに不法に占拠されている「北方四島の早期返還」を訴えました。参加された皆さん有難うございました。



北方領土返還要求行進

「クリスマスツリー」を含む見事な曲技飛行を展示していただきました。また、県自衛隊家族会からは県会長をはじめ、地区会長および正会員約七十人が参加し、祝賀会場前で集合写真撮影することができました。

これは、百里基地司令のご厚意と県会長の積極的な呼びかけによって実現したものです。



航空祭での家族会員

○十二月・宮城県家族会と多賀城駐屯地の研修
 県家族会員十六名が参加して、宮城県自衛隊家族会及び多賀城駐屯地の視察・研修を実施しました。

十二月十二日(木)多賀城駐屯地では「二十一年に発生した東日本大震災の状況及び自衛隊の災害派遣の状況」をビデオにてご教示受けました。大震災では、多賀城駐屯地にも津波が押し寄せ、災害派遣のため待機していた車両の大多数が使用不能となったそうです。当時の派遣指揮官の某中隊長は、この悲惨な状況下でも被災地区の被害の極限、被災者の発見・救助を行うため、隊員と残存した車両

等の迅速、かつ、効果的運用に努めました。時期は三月十一日とあつて、宮城県は酷寒の世界でした。被災地からは救助を求める要請が各所から上がるなか、寒さで震える体を鼓舞し、仮眠一時間での眠さをこらえ支援活動を継続するのでした。生存の確率が極端に減る三日を越えたころから、被災地に取り残された被災者の捜索に重きを置かれ、家屋の玄関前や倒壊した建物の下敷きになった被災者、特に幼児を発見した際は、涙が止まらなかつたそうです。この時の自衛隊家族支援は、公共性の面と部隊の隊力の限界から隊員家族の安否確認及び支援もほとんどできない状況で、後から隊員家族からも多くの被災者が発生していたことが判明したそうです。懇親会を仙台駅近傍にて実施し茨城県と宮城県の絆を深めることが出来ました。

○一月・勝田駐屯地「二十歳の集い」での県家族会長の祝辞
 陸上自衛隊勝田駐屯地にて「二十歳の集い」が行われまし



本部隊舎前



懇親会

た。県家族会長が参加し、祝辞を述べさせていただいておりました。

○一月・第三十三回施設設学校音楽隊定期演奏会
 ひたちなか市文化センターにて第三十三回施設設学校音楽隊定期演奏会が実施されました。午後一時から四時の間、音楽隊長松本恵美陸曹長の指揮のもと三部構成で実施されました。県家族会からは二十五名の会員の皆さんが参加され、演奏を楽し



令和6年度駐屯地二十歳の集い 勝田駐屯地 令和7年1月15日

と共にイベントの盛会に貢献いたしました。演奏会の終了後、玄関フロアの茨城地本ブース横にて、音楽隊長、茨城地本部長及び参加者全員で県家族会のぼり旗の横で集合写真を撮り、帰路につきました。

○二月・武器・施設設学校入校学生(生徒課程)の激励報告
 陸上自衛隊土浦駐屯地を訪問し、武器学校及び施設設学校に入校中の生徒課程学生(昨年高等工科学校を卒業された二十歳未満の若者)の課目の研修及び学生の激励をしてまいりました。午前の武器学校に入校中の学生による発表会を聴講(激励)では予選会を経て代表となられた十一名の学生の方々が「生徒課程を卒業後、それぞれの部隊に着任するにあたり初級陸曹としてのあるべき姿」について発表されました。自らの地位・役割を分析され、若く、かつ、技術支援を専門とする陸曹となる立場として「入校中の識能の向上」はもちろんのこと、「人間関係(コミュニケーション)」、「体力錬成」及び「部隊(顧客)の立場に立った支援」等の重要性を理解・認識され、部隊の戦力維持に全力で貢献したいという意気込みに満ちた内容でした。午後の個人走及び駅伝競走では施設設学校に入校中の学生の方々



ピカチュウも参加



会場ロビー

が加わり、約四キロメートルの個人走、次いで専門特技コース毎の五名編成のチームに分かれて駅伝競走を実施されました。個人走・駅伝競走ともに白熱した競技となり、家族会会員の応援も熱気溢れるものとなりました。



生徒課程学生

集合写真

慰問品贈呈

駅伝競走スタート

賛助会員

ロイヤル化粧品 株式会社

昭和金属工業株式会社

ホテルレイクビュー水戸

ホテルテラスザガーデン水戸

株式会社リペイントワン

株式会社イーストワン